

(1)金ヶ崎町地域公共交通網形成計画 策定の方向性(案)について

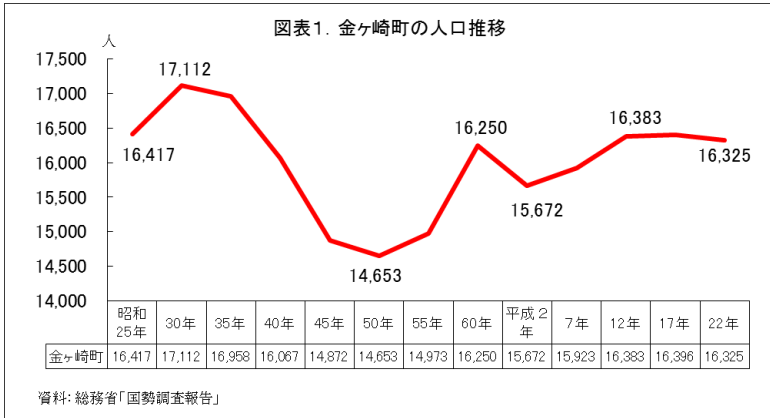
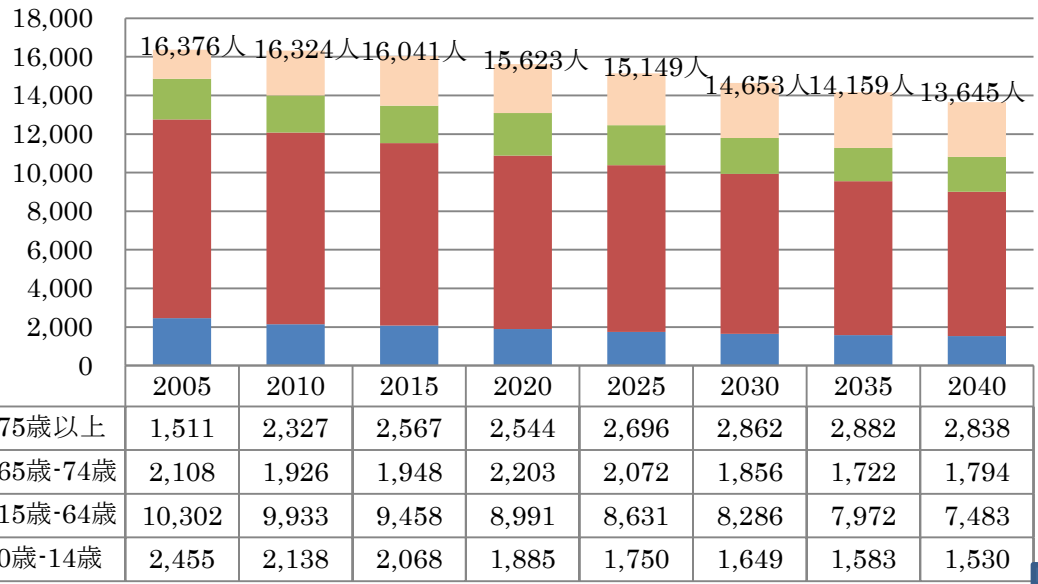
平成31年 3月25日(金) 10:00～
役場4階 大会議室

目次

- ① 金ヶ崎町の人口推移 P.3～
- ② 金ヶ崎町の今後について P.5～
- ③ 金ヶ崎町の公共交通等の今後について P.8～
- ④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について P.11～

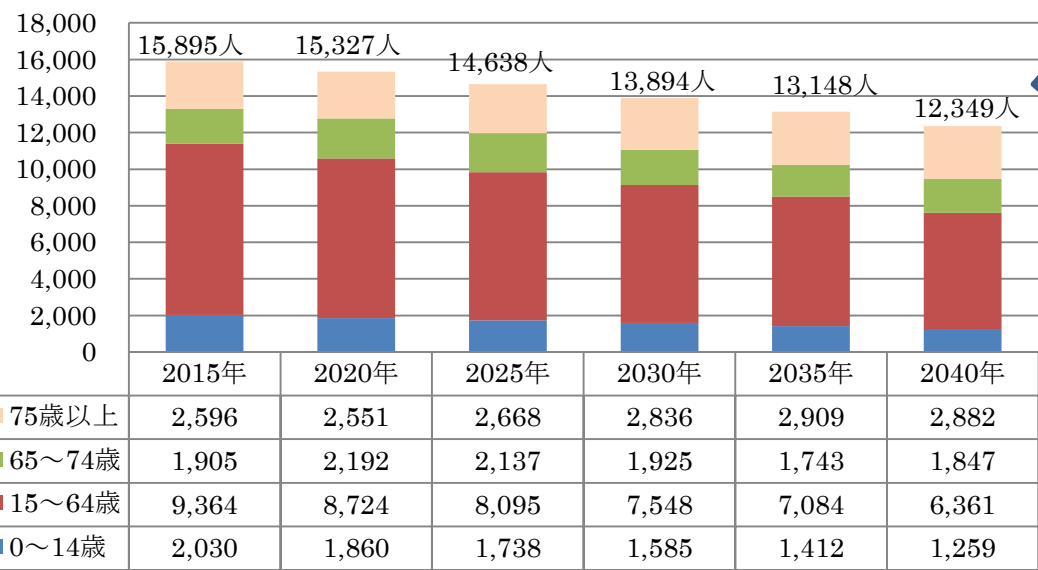
① 金ヶ崎町の人口推移

年齢区分別推計人口



平成26年(2014)3月末 16,077人
 平成30年(2018)3月末 15,687人

出典: 金ヶ崎町人口ビジョン(2016年2月公表)



将来人口の目標

目標年	独自推計	目標人口
2020年	15,623人	15,700人
2025年	15,149人	15,300人
2040年	13,645人	<u>14,000人</u>
2060年	11,263人	<u>12,000人</u>

出典: 金ヶ崎町総合発展計画

国立社会保障・人口問題研究所の直近の推計によると、2015年に15,895人だった人口が、2040年には12,349人と約3,500人減ることが見込まれており、**金ヶ崎町人口ビジョンよりも速いペースで人口減少が進行**

出典: 国立社会保障・人口問題研究所(2017公表)

① 金ヶ崎町の人口推移

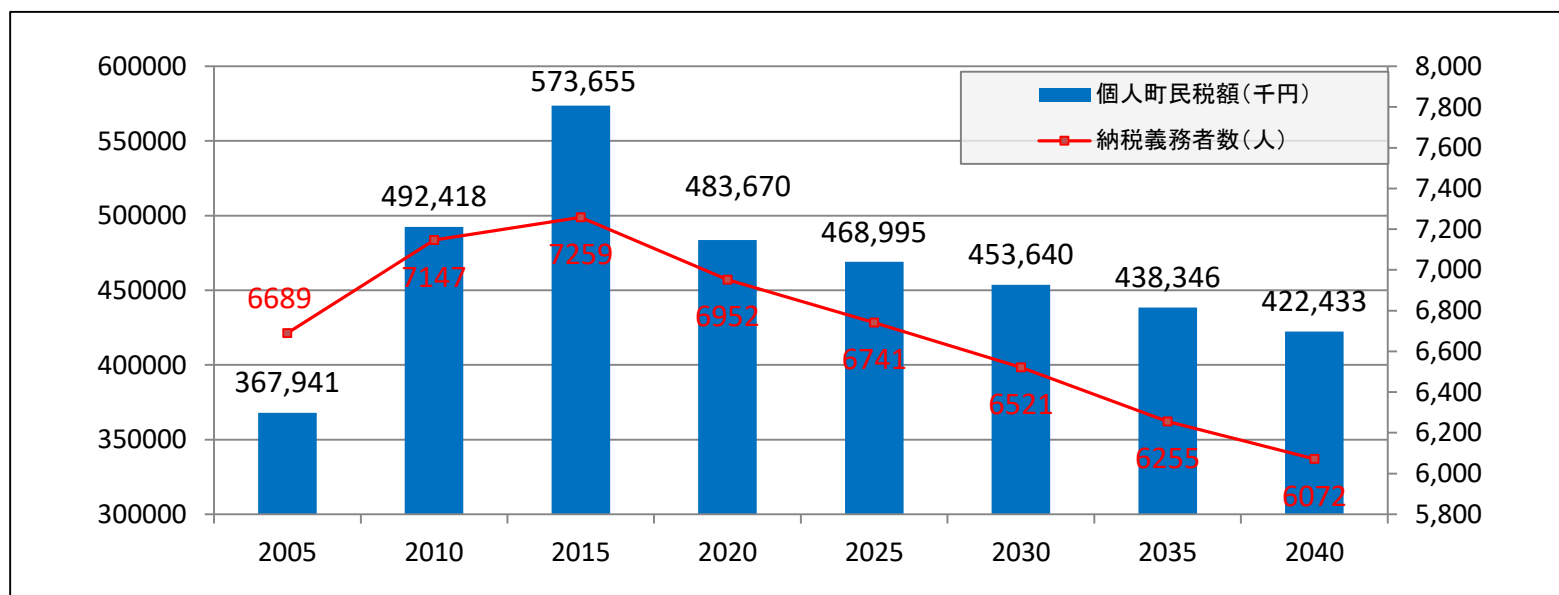
人口が減少するとどうなるか？

- ▶ 働く人が減ることから町の個人町民税の税収が減ります。
- ▶ 税収が減るため、職員数が減ります。
- ▶ 職員数が減ることからサービスに限りがでてきます。
- ▶ 空き家が増加する可能性があります。
- ▶ 地域コミュニティの維持が難しくなります。

20年後の金ヶ崎町を想像してみた場合

- ▶ 税収が減少
⇒ 2015年～2040年 個人町民税約26%減少
- ▶ 社会経済状況の変化等により、
企業が撤退・縮小した場合
⇒ 町民税の約44%を占める
法人町民税、固定資産税が大きく減少

個人町民税の推計



※2020年度以降の納税義務者数については、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に直近5年間の総人口に占める納税義務者数の割合の平均値をかけて算出。

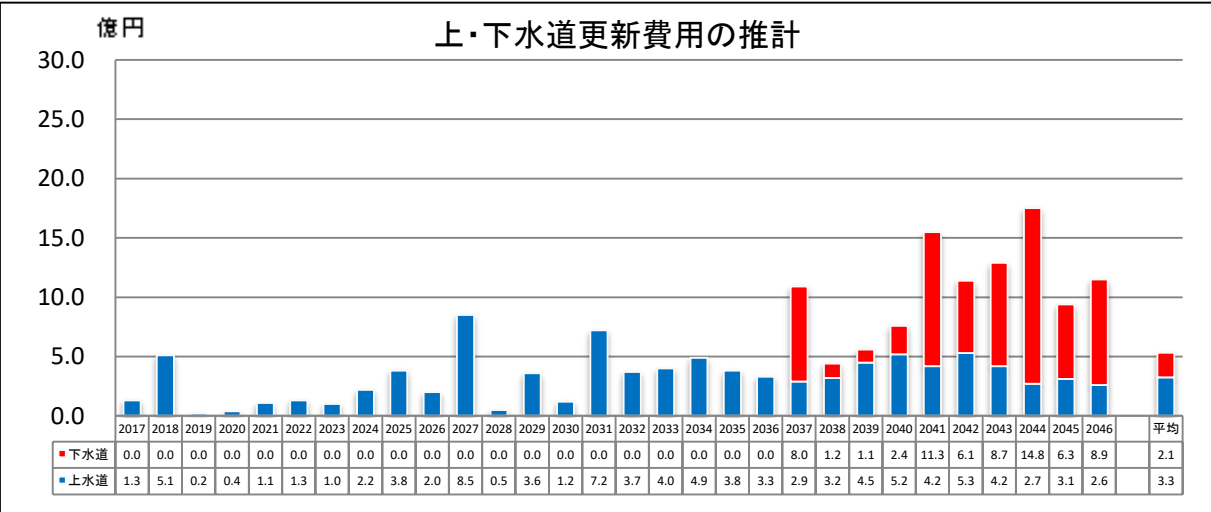
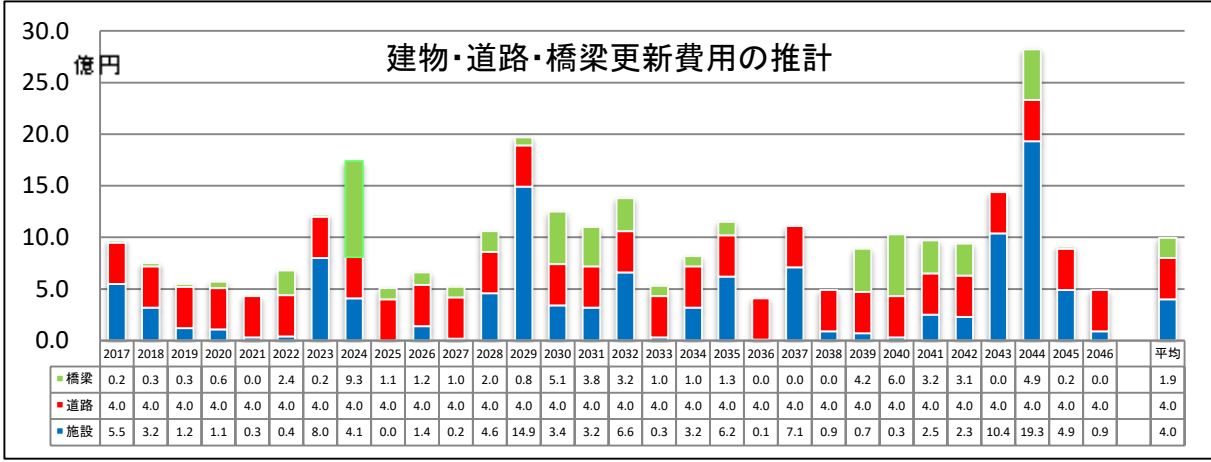
② 金ヶ崎町の今後について

将来の公共施設等の更新について

- ▶ 現状の機能・規模を維持した状態で更新した場合
⇒更新費用は30年間で総額450.4億円（公共施設117.2億円、道路橋梁174.4億円、上下水道165.8億円）、年15.3億円の整備費が必要と推計されています。



中長期的かつ全庁横断的な視点で所管する課の枠を超えた共通認識を持ち、財政支出の平準化及び今後の公共施設の在り方について住民も含め意見交換をする必要があります。



出典：金ヶ崎町公共施設等総合管理計画（2016年3月）

② 金ヶ崎町の今後について

人口減少や少子・高齢化が進行し、町の財政状況が厳しくなる中で、
状況持続可能な地域社会と自治体経営の構築を図るために…



そのなかでも

「住民が安心して幸せに暮らせるために」

自治体経営改革を推進

- ▶ 金ヶ崎町自治体経営(行政経営と地域経営)改革大綱を策定(平成30年10月)

- ▶ 基本理念
自治体と地域の自立を実現する「自治体経営の確立」

- ▶ 基本方針

1 組織力・職員力を生かしたトータル・マネジメントシステムの構築

組織力・職員力を生かし、行政システム全体として効果的に機能するトータル・マネジメントシステムを構築し、行政組織の生産性を高めます。

2 財政基盤・経営力の強化

経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を有効に活用し、財政規律のもと、財政基盤と経営力の強化を図ります。

3 協働による行政経営と地域経営の確立

「住民協働」と「住民と行政との協働」からなる「協働」による行政経営と地域経営を推進することで、自治体と地域のそれぞれの生産性を高めます。

② 金ヶ崎町の今後について

自治体経営改革の遂行の基軸となる戦略

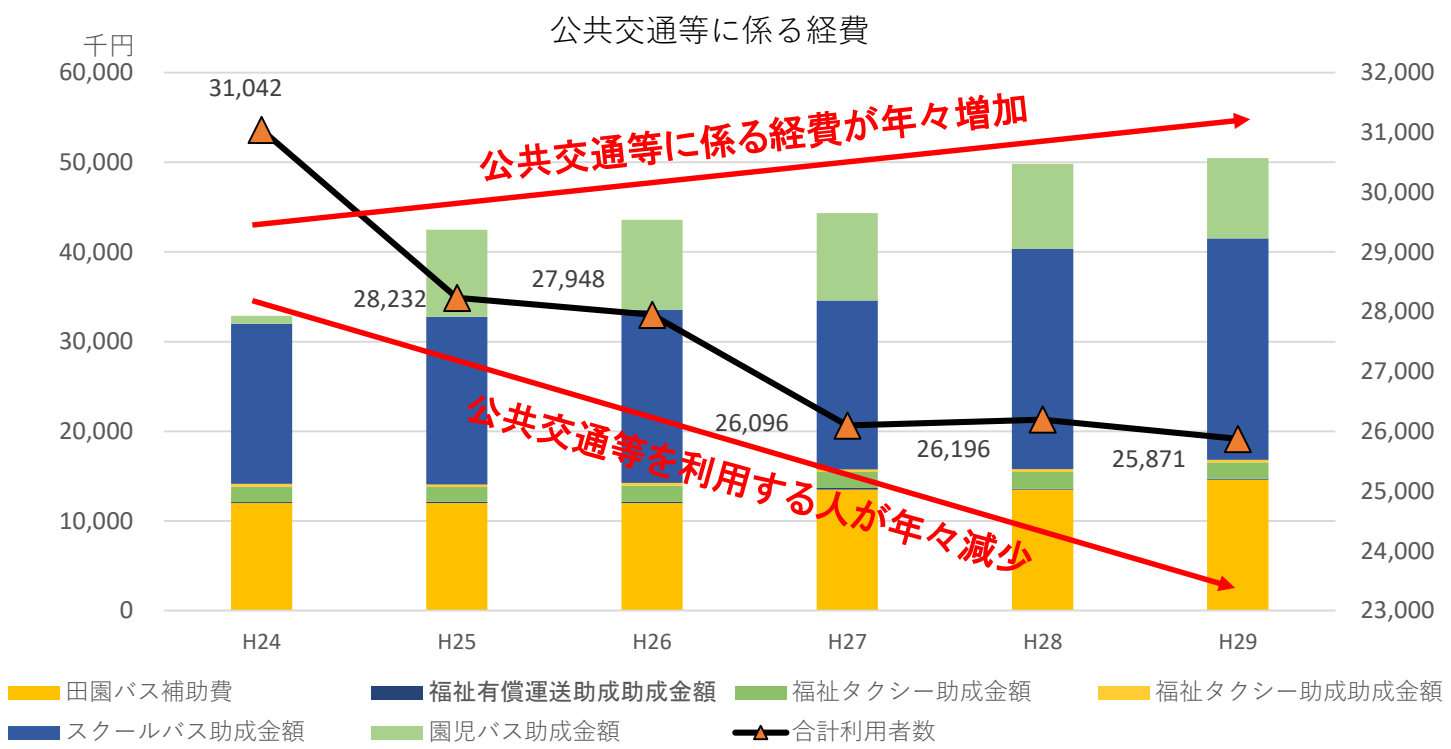
- 1) 行政組織の生産性向上
戦略改革①＝「効率効果的な組織体制とガバナンス機能の強化」
- 2) 縮小社会に対応した公共施設等の効率化と最適化
戦略改革②＝「縮小社会に対応した公共施設等の効率化と最適化」
- 3) 自治体の自立と発展の根幹をなす財政の健全化
戦略改革③＝「財政規律の確立と定着」
- 4) 住民協働による地域づくりの推進
戦略改革④＝「住民協働による地域づくりの推進」
- 5) 多様な主体と行政との連携による生産性向上
戦略改革⑤＝「多様な主体と行政との連携の実現」

人口が減少し、人口密度が低下するような縮小が進展していくと、「公共施設等の維持管理費を割高なものにする」「鉄道、バス等の移動エネルギーの効率を悪化させる」など、効率性が悪化します。

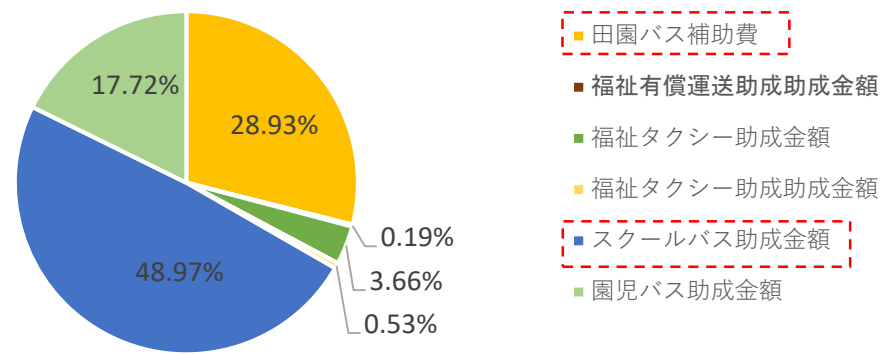
将来にわたって安心安全で快適な行政サービスを提供するとともに、次世代にさらなる負担を残さないため、公共資産にかかる更新等費用を縮小していく必要があります。また、この実現に向け、「施設の質と量の最適化」、「安全安心の確保」、「トータルコストの削減」、「新たな価値の創出」、「公共資産の有効活用」の視点からスピード感をもって公共資産の効率化と最適化を推進していく必要があります。

③ 金ヶ崎町の公共交通等の今後について

金ヶ崎町地域公共交通等の課題



H29公共交通等に係る経費割合



— CHECK① —

田園バスとスクールバスに係る経費が全体の約78%を占めています。
経費割合の高い田園バスとスクールバスの2つの交通手段で経費が膨らんでいることが分かります！

③ 金ヶ崎町の公共交通等の今後について

金ヶ崎町地域公共交通等の課題

— CHECK② —

経費割合の高い田園バスと
スクールバスの2つの交通手段に
ついて利用者数は??

H24年度とH29年度を比較すると・・・
 ○田園バスは、延べ約5,700人減少
 ○スクールバスは、日当り27人減少
 ※延べ換算すると
 27人/日×264日⇒7,128人

公共交通等の利用者数



田園バス利用者(人)	H24	H25	H26	H27	H28	H29
福祉有償運送助成利用者(人)	91	138	137	161	109	85
福祉タクシー助成高齢者(人)	2,948	3,282	3,405	3,432	3,600	3,562
福祉タクシー助成障害者等(人)	575	522	621	593	576	516
スクールバス利用者(人)	185	178	176	160	157	158
園児バス利用者(人)	80	85	76	75	65	68
利用者一人当りに係る経費(円)	1,060	1,504	1,559	1,699	1,902	1,951

③ 金ヶ崎町の公共交通等の今後について

金ヶ崎町地域公共交通等の課題

— CHECK③ —

人口減少・少子高齢化は利用者だけの問題ではない！



バスの運転手も高齢化・担い手不足が深刻化！

▶田園バス ⇒ 大型免許2種 運転手 5名

▶スクールバス ⇒ 大型免許1種 運転手 6名

▶園児バス ⇒ 大型免許1種 運転手 3名

⇒ これまで町で雇用し、園児バスを運転してきていただいた3名が高齢等の理由で延長が困難に…平成31年度から委託による運行を予定。直営から委託に変更することにより経費は増額…

～ 今後の方向性 ～

既に、金ヶ崎町においても人口減少が進み、人口密度が低下するなど縮小社会となっており、効率性が悪化しています。現状を踏まえ、今後も公共交通を継続していくためには、「質と量の最適化」、「安全安心の確保」、「トータルコストの削減」、「新たな価値の創出」、「有効活用」の視点からスピード感をもって効率化と最適化を推進していく必要があります。



人口減少
少子・高齢化

縮小社会



持続可能な
まちづくり

行財政改革推進



地域公共交通会議

課題と今後について協議



持続可能な
公共交通

金ヶ崎町地域公共
網形成計画策定




④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

金ヶ崎町地域公共交通等の課題

- ▶ **CHECK① 経費が年々増額となっている。**
 - ☞ **経費を抑制する**
 - ☞ **効率の良い運行**
 - ☞ **時代の変化(ニーズ等)に対応**
- ▶ **CHECK② 利用者数が減少となっている。**
 - ☞ **人口減少社会の中で利用者の減少を抑制する**
 - ☞ **利用される・利用しやすい工夫**
 - ☞ **新たな利用者(観光客等)の掘り起こし**
- ▶ **CHECK③ 運転手不足・担い手不足**
 - ☞ **担い手を育成をする**
 - ☞ **運転手育成に支援を検討**
 - ☞ **運転手の働き方を検討**
 - ☞ **効率的な運行による必要人員を抑制する**
 - ☞ **運行回数・統合など検討**
 - ☞ **運転手への負担軽減を検討**



< 着眼点 > ☞ 利用者の減少が進み、経費が増額している 田園バス と スクールバス

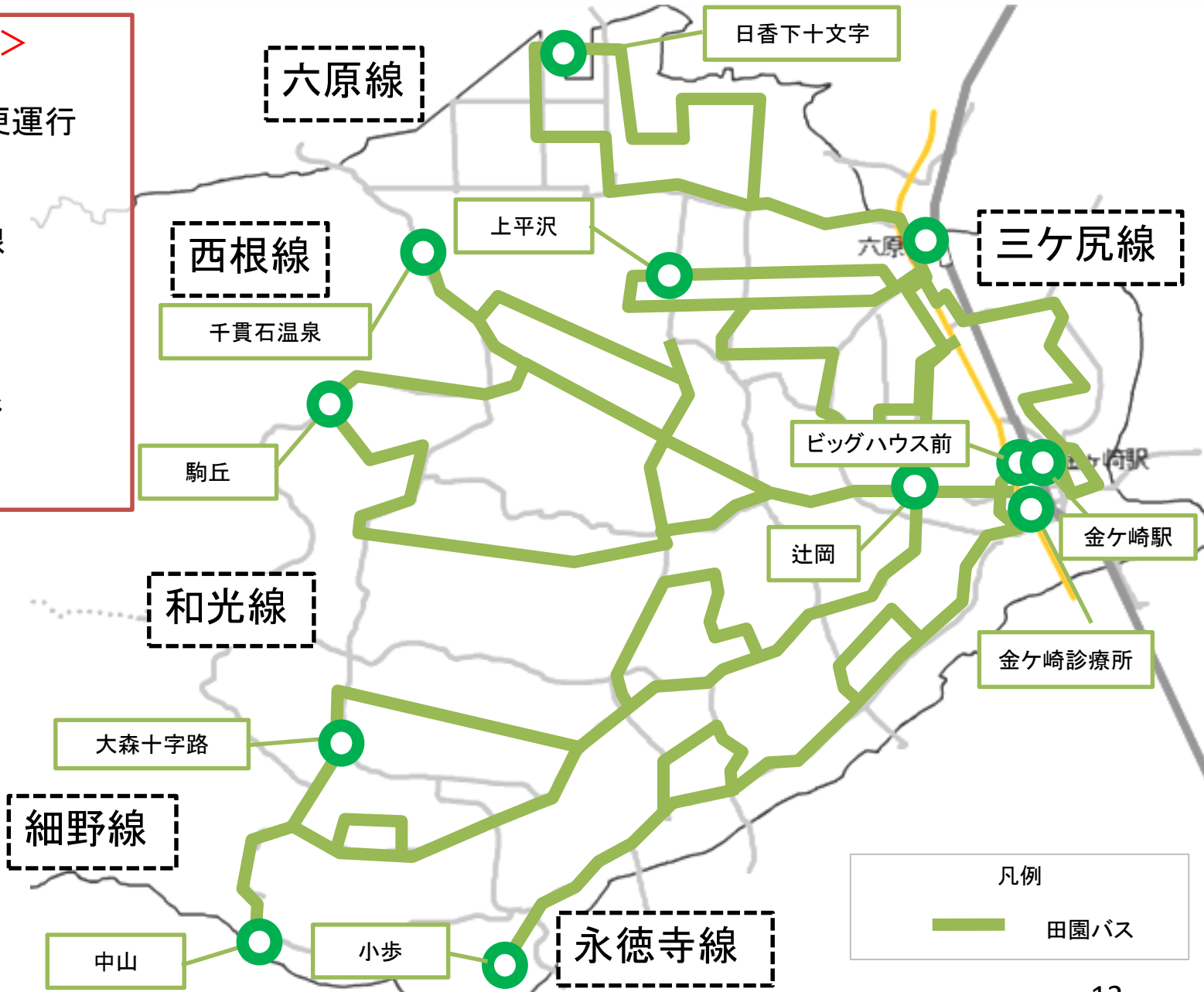
- ▶ **経費増額** 
 - ・田園バスとスクールバスの経路がほぼ重複しており非効率である
- ▶ **利用が減少** 
 - ・スクールバスは登下校の運行が主であり、日中は利用されていない
- ▶ **運転手不足** 
 - ・田園バスとスクールバスの利用者が減少しており、車両に空席がある

④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

<田園バス概要>
 ・3台の車両
 6路線を各4便運行

(マイクロバス):
 六原・永徳寺線
 (マイクロバス):
 細野・西根線
 (ジャンボ):
 和光・三ヶ尻線

・1回100円

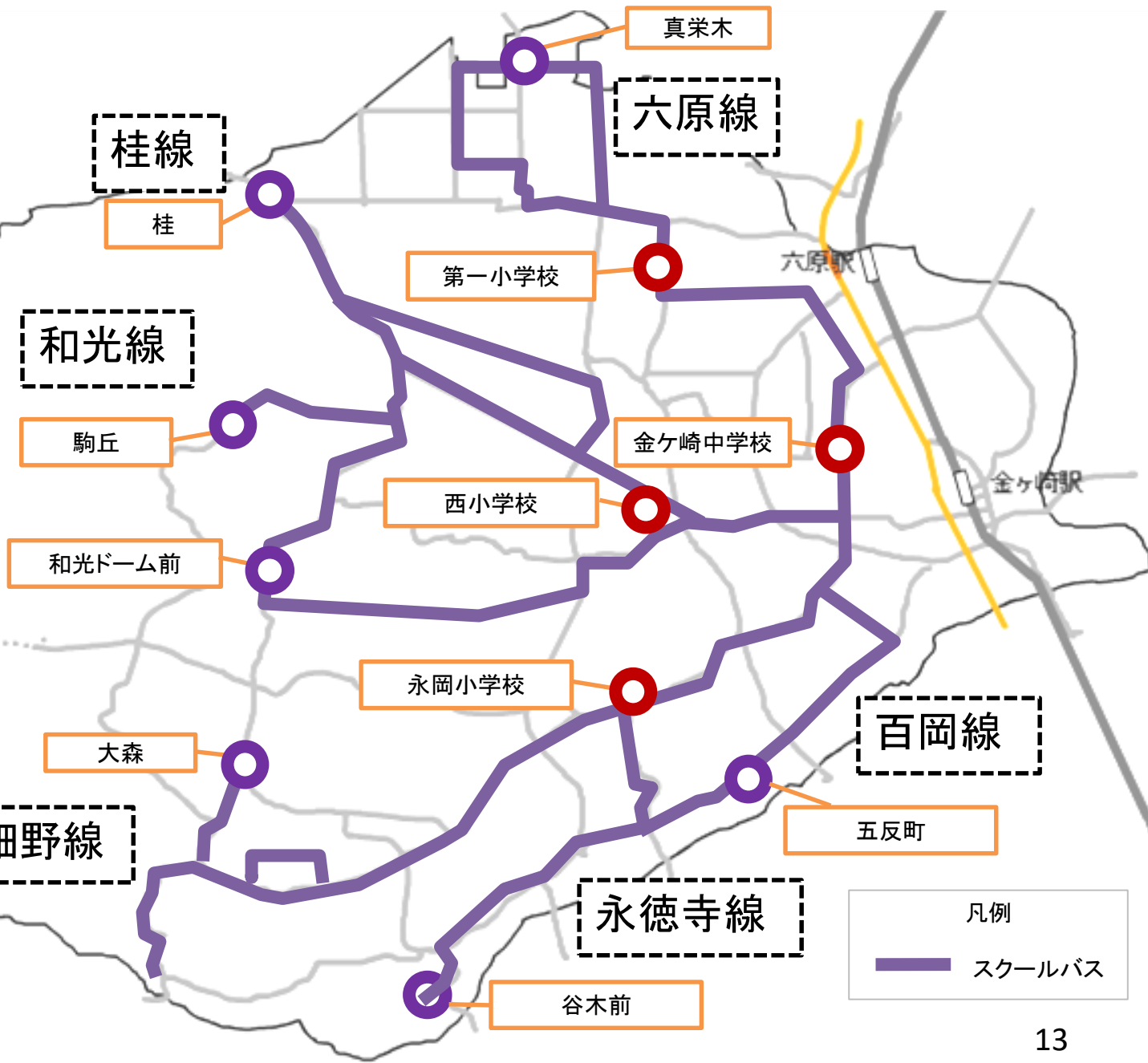


④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

<スクールバス概要>
 ・6台の車両
 6路線朝夕運行

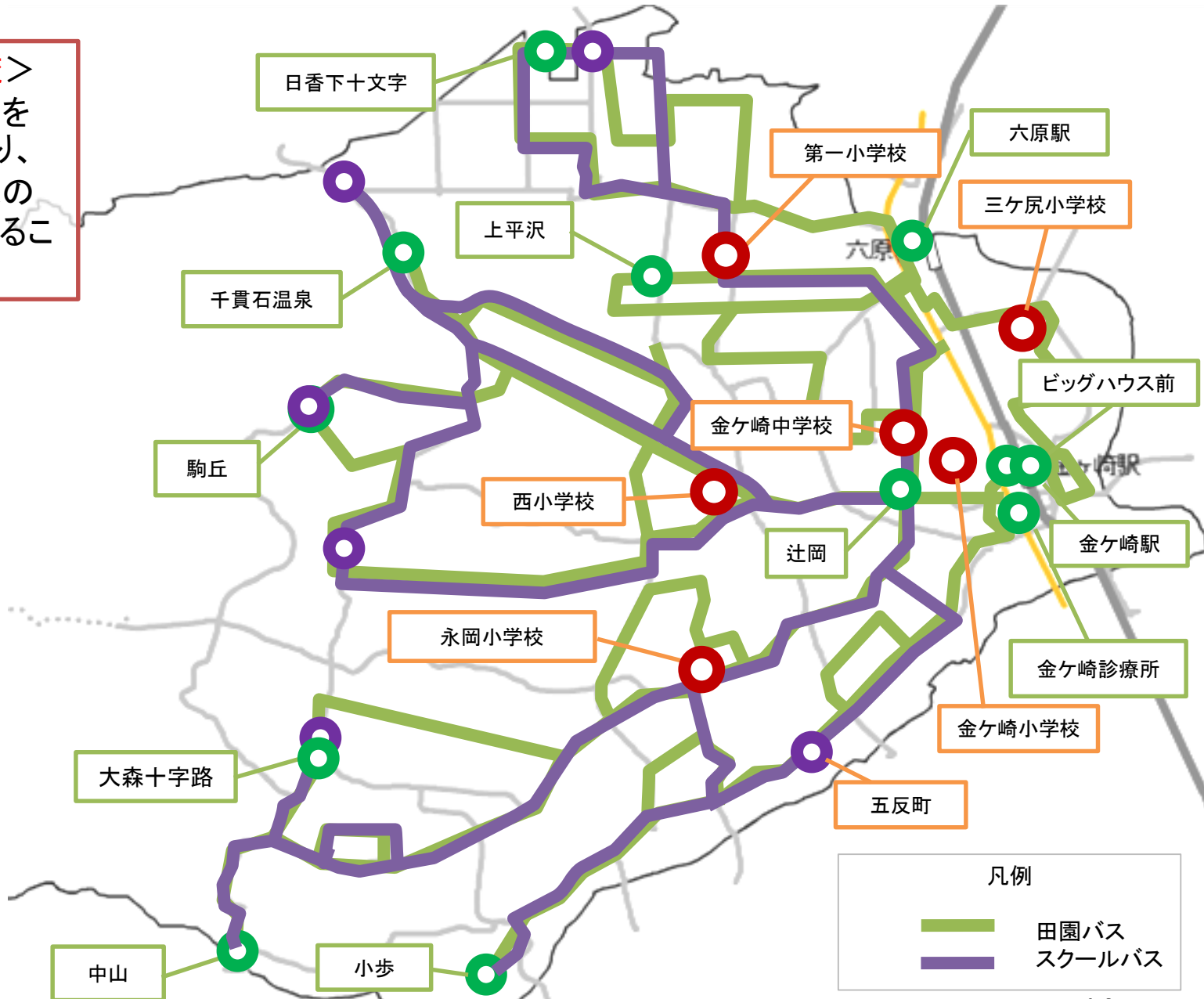
(大型バス): 百岡線
 (大型バス): 六原線
 (中型バス): 桂線
 (中型バス): 和光線
 (中型バス): 細野線
 (中型バス): 永徳寺線

・無料



④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

<運行ルート比較>
 田園バスが町内を幅広く運行しており、概ねスクールバスの路線を網羅していることが分かります。



④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

今後のスクールバスの利用者の予測

年齢	男	女	計
0	64	52	116
1	56	69	125
2	60	62	122
小計1	180	183	363
3	68	54	122
4	62	45	107
5	59	64	123
小計2	189	163	352
6	79	60	139
7	64	61	125
8	66	54	120
小計3	209	175	384

年齢	男	女	計
9	67	71	138
10	84	61	145
11	69	69	138
小計4	220	201	421
12	81	53	134
13	81	78	159
14	82	77	159
小計5	244	208	452
15	74	76	150
16	79	76	155
17	91	69	160
小計6	244	221	465

表1 学生等の人口【住民基本台帳数値 平成30年度4月30日現在】

【平成29年度スクールバス利用対象者数】
 小学生 84人／805人 約10.4%
 中学生 74人／452人 約16.4%

3年後の利用者数を推計



12人利用対象者が減少

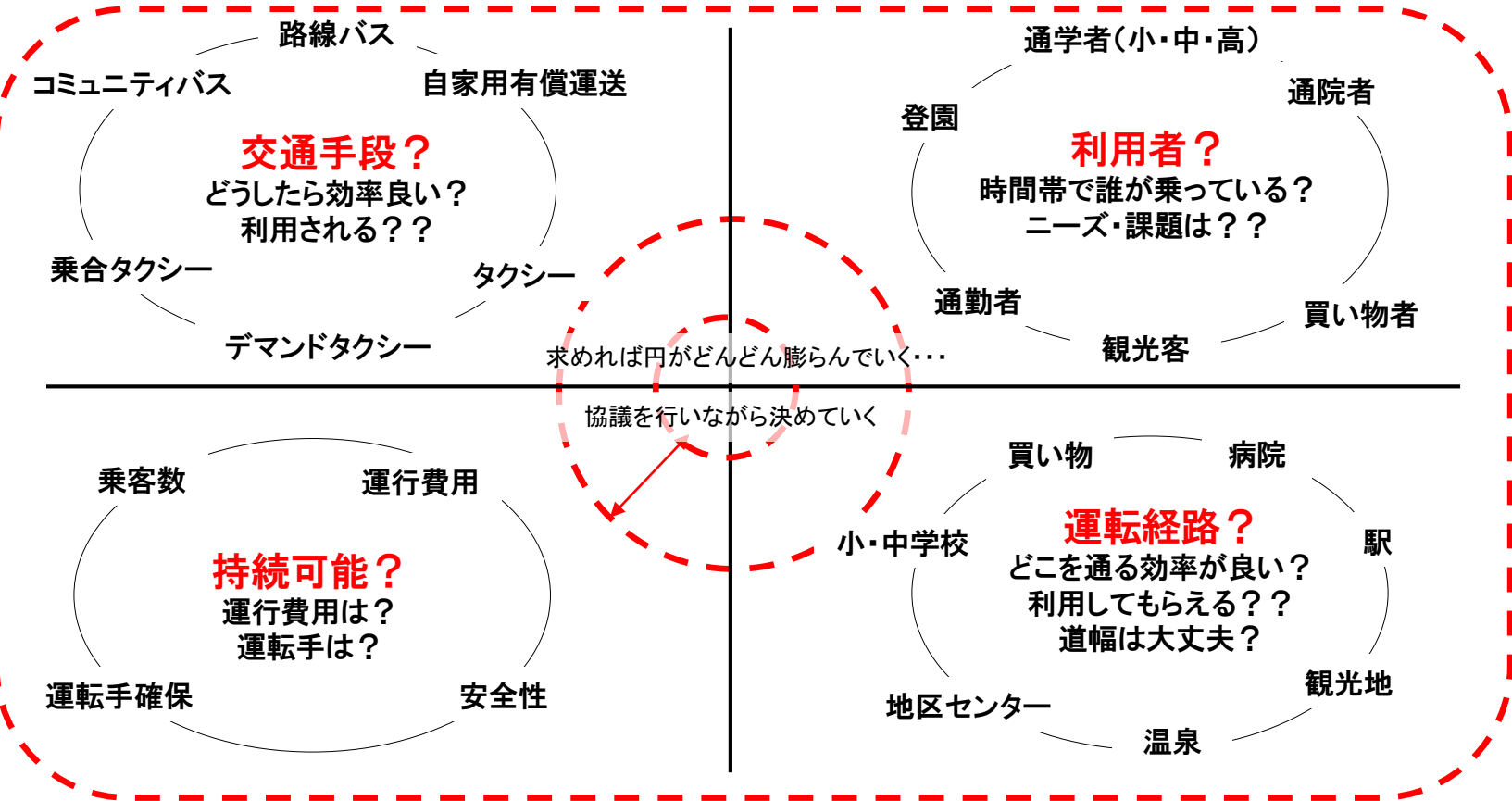
【平成32年度スクールバス利用対象者数】
 小学生 77人／736人 約10.4%
 中学生 69人／421人 約16.4%

④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

田園バスとスクールバスを中心に現状や課題を調査

調査結果を基に将来性・効率性・利便性・安全性・経済性などの視点から公共交通等の基本方針や具体的な取り組み内容について公共交通会議で協議(3回程度)

今後の町の公共交通等のビジョンとなる
金ヶ崎町地域公共交通網形成計画 を策定



④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

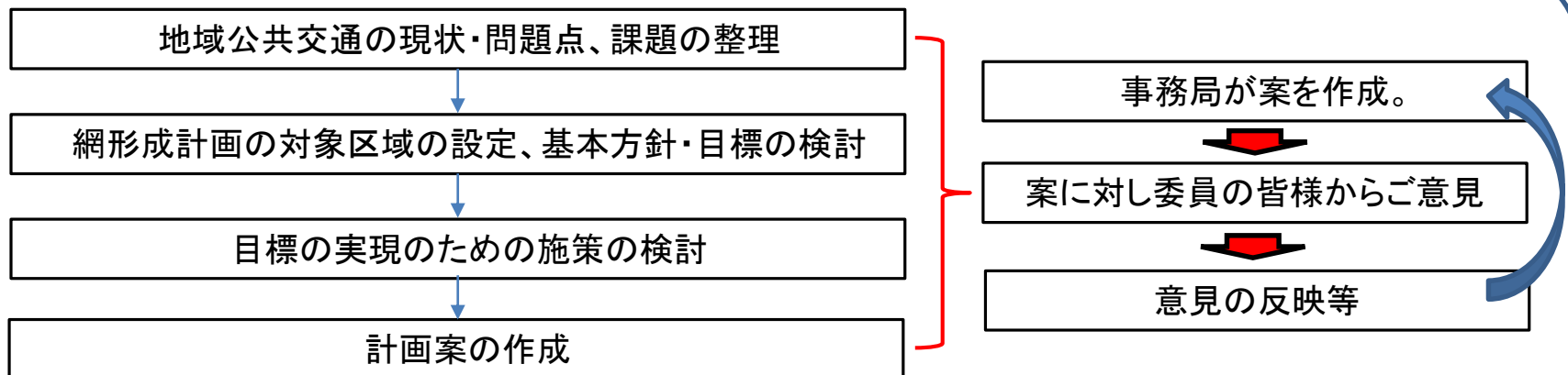
○地域公共交通網形成計画とは？

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に示され、地域公共交通の現状・問題点、課題の整理を踏まえて地域公共交通ネットワーク全体を一体的に形づくり、持続させることを目的に、地域全体の公共交通システムのあり方、住民・交通事業者・行政の役割を定めるもの。

○地域公共交通網形成計画に掲載することは？（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条第2項）

- ①持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針
- ②地域公共交通網形成計画の区域
- ③地域公共交通網形成計画の目標
- ④目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関すること
- ⑤地域公共交通網形成計画の達成状況の評価に関する事項
- ⑥計画期間
- ⑦その他必要な事項

○地域公共交通網形成計画作成の手順は？



④ 金ヶ崎町の地域公共交通網形成計画策定に向けた方向性について

調査結果を基に将来性・効率性・利便性・安全性・経済性などの視点から公共交通等の基本方針や具体的な取組み内容について公共交通会議で協議(3回程度)



今後の町の公共交通等のビジョンとなる

金ヶ崎町地域公共交通網形成計画 を策定 (Plan)



策定した網形成計画に基づき、運行や事業に反映 (Do)



毎年、運行や事業について公共交通会議で確認 (Check)



毎年、運行や事業について課題の抽出、改善方策の検討 (Action)

